

折に触れ 四字熟語

NO. 310 【羅織虚構】 らしき きょこう

< 意味 > 無実の罪をでっちあげること。無実の者に対して、いろいろと事を持ち出して罪を作り上げ、それをさも事実らしくしてしまうこと。

用 例 : 聞くところによると彼らは羅織虚構をもって良民を罪に陥れる事さえあるそうだ。

<夏目漱石・吾輩は猫である>

語 釈 : 「羅織」は罪に陥れる。罪のない者を捕えて、その罪を作り上げる意。「虚構」は作り事を事実らしく組み立てる意。「織」は「しょく」とも読む。

一 言 : 58年前、静岡県で一家4人が殺害された事件で死刑が確定した袴田巖さんの再審で無罪の判決が言い渡されました。検察は10月9日控訴の権利を放棄する手続きを取り、袴田さんの無罪が確定しました。9月26日の静岡地裁の再審判決では、捜査機関が証拠を捏造したと認定しています。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」